

惜春

谷垣満壽子

北窓を開け遠来の友を待つ

料峭れうせうや高みに絵馬をかける子等

ものの芽や隣家の普請順調に

花祭はなまつり年を積みたる三姉妹

春雷に錠剤ひとつ飲み込みぬ

百千ももちどり鳥子のよく弾きしピアノ曲

連翹の明るしやる気湧いてきし

菜種梅雨はや灯を点す荒物屋

鳥帰る幸ひ住むとふ彼方まで

草の名を教へ合ひつつ春惜しむ